

# 医療安全

M-04-24-L

オーガナイザー  
医療安全推進部  
水本 一弘

## I 授業の目的

医療の質と安全性の管理に必要な知識を習得する。医療上の事故等（インシデントを含む）は常に起こりうることを理解し、それに対する対処と予防に必要な知識と技術を習得する。

## II 到達目標

### (1) 安全性確保に必要な基礎知識

1. 医師の法的義務を列挙し、例示できる。
2. 医療行為が患者と医師の契約的な信頼関係に基づいていることを説明できる。
3. 医療上の事故等を防止するためには、個人の注意（ヒューマンエラーの防止）はもとより、組織的なリスク管理（制度・組織エラーの防止）が重要であることを説明できる。
4. 医療上の事故等（インシデントを含む）と合併症の違いを説明できる。
5. 基本的予防策（ダブルチェック、チェックリスト法、薬品名称の改善、フェイルセーフ・フルプルーフの考え方等）を概説できる。
6. 医療現場における労働環境の改善の必要性を説明できる。

### (2) 安全性確保に必要な活動

1. 患者の自己決定権の意義を説明できる。
2. インフォームド・コンセントとインフォームド・アセントの意義と必要性を説明できる。
3. 医師には能力と環境により診断と治療の限界があることを説明できる。
4. 患者に分かりやすい言葉で説明できる。
5. 医療機関における医療安全管理体制の在り方（事故報告書、インシデントレポート、医療事故防止マニュアル、医療廃棄物処理、医療安全管理者（リスクマネージャー）、安全管理委員会、事故調査委員会、医療事故調査制度、産科医療補償制度）を概説できる。
6. 医療過誤に関連した刑事・民事責任や医師法に基づく行政処分を説明できる。
7. 医療の質の確保（病院機能評価、国際標準化機構 (International Organization for Standardization <ISO>)、医療の質に関する評価指標、患者満足度、患者説明文書、同意書、同意撤回書、クリニカルパス等）を説明できる。
8. 診療関連死を説明できる。
9. 治療やマネジメントに関して意思決定するために、患者側と情報共有や摺り合わせをすることができる。

### (3) 医療上の事故等予防/チーム医療とコミュニケーション

1. コミュニケーションの方法と技能（言語的と非言語的）を説明し、コミュニケーションが態度あるいは行動に及ぼす影響を概説できる。
2. コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。
3. チーム医療の意義を説明できる。
4. 実際の医療には、多職種が多段階の医療業務内容に関与していることを具体的に説明できる。
5. 対人関係にかかわる心理的要因を概説できる。
6. 主な対人行動（援助、攻撃等）を概説できる。
7. 効果的な対人コミュニケーションを説明できる。

#### (4) 事故報告・分析・改善

1. 臨床倫理や生と死に関わる倫理的問題を概説できる。
2. 医療現場における報告・連絡・相談と記録の重要性や、診療録（カルテ）改竄の違法性を説明できる。
3. 医療の安全性に関する情報（薬剤等の副作用、薬害、医療過誤（事例や経緯を含む）、やっではないけないこと、優れた取組事例等）を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。
4. 医療上の事故等（インシデントを含む）が発生したときの緊急処置や記録、報告を説明し、実践できる。

#### (5) 薬剤関連有害事象・安全性確保

1. 薬物に関する法令を概説し、医薬品の適正使用に関する事項を列挙できる。
2. 副作用と有害事象の違い、報告の意義（医薬品・医療機器等安全性情報報告制度等）を説明できる。
3. 薬物によるアナフィラキシーショックの症候、診断、対処法を説明できる。
4. 主な薬物の有害事象を概説できる。
5. ポリファーマシー、使用禁忌、特定条件下での薬物使用（アンチ・ドーピング等）を説明できる。

### III 教育内容および講義日程表

No	月日	曜日	時限	項目	担当
1	R5. 11. 24	(金)	1	安全性確保に必要な基礎知識	水本
2	R5. 12. 7	(木)	3	安全性確保に必要な活動	田村
3	R5. 12. 12	(火)	3	医療上の事故等予防/チーム医療とコミュニケーション（演習/講義）	水本
4	R5. 12. 15	(金)	2	事故報告・分析・改善	藁科
5	R5. 12. 15	(金)	3	薬剤関連有害事象・安全性確保	中村

### IV 学習および教育方法

講義および演習・発表、質疑応答

### V 評価の方法

講義時間内実施の小テスト（20点満点）4回の結果および演習参加内容評価（最高評価点20点）との合計点（100点満点）が60点以上を合格と判定する。

### VI 推薦する図書、参考書

- ・医療安全学 編著 森本剛、他 篠原出版新社
- ・5日間で学ぶ医療安全超入門 編集 坂本すが 学習研究社
- ・医療におけるヒューマンエラー 第2版：なぜ間違える どう防ぐ 河野龍太郎 医学書院

	1 基盤的資質		2 医師としての本資質	3 コミュニケーション能力	4 医学的知識										5 医学の実践										6 医学的(科学的)探究				7 社会貢献															
	卒業時コンピテン	問題解決型能力	情報技術	語学能力	倫理観	社会人としての一般教養	自己啓発	チーム医療	情報交換	他者への思いやり	人間関係の構築	人体の発達、成長、加齢、死	細胞の構造と機能	人体の構造と機能	疾病の機序と病態	検査・画像診断技術	基本的診察知識	疾病の診断・治療方法	巴豆の利用	生物統計、疫学	行動科学・医療経済	法令、研究倫理	患者尊厳	基本的臨床技能	臨床推論・検査所見・画像診断	診療録作成	治療選択	救急医療	緩和・終末期・看取りの医療	介護と在宅医療	患者説明	医療安全・感染予防	予防医学	副作用・薬害	和歌山県医療	保健制度	基礎医学研究	臨床医学研究	社会医学研究	研究成果の公表	研究倫理の実践	地域貢献	福祉活動	ボランティア活動
医療安全	レベルD	レベルD	レベルD	レベルE	レベルD	レベルC	レベルD	レベルC	レベルD	レベルC	レベルF	レベルF	レベルF	レベルF	レベルF	レベルE	レベルE	レベルE	レベルE	レベルE	レベルD	レベルD	レベルF	レベルE	レベルE	レベルE	レベルF	レベルC	レベルC	レベルF	レベルD	レベルE	レベルF	レベルF	レベルF	レベルF	レベルF	レベルF	レベルF	レベルF	レベルE	レベルE	レベルE	レベルE